

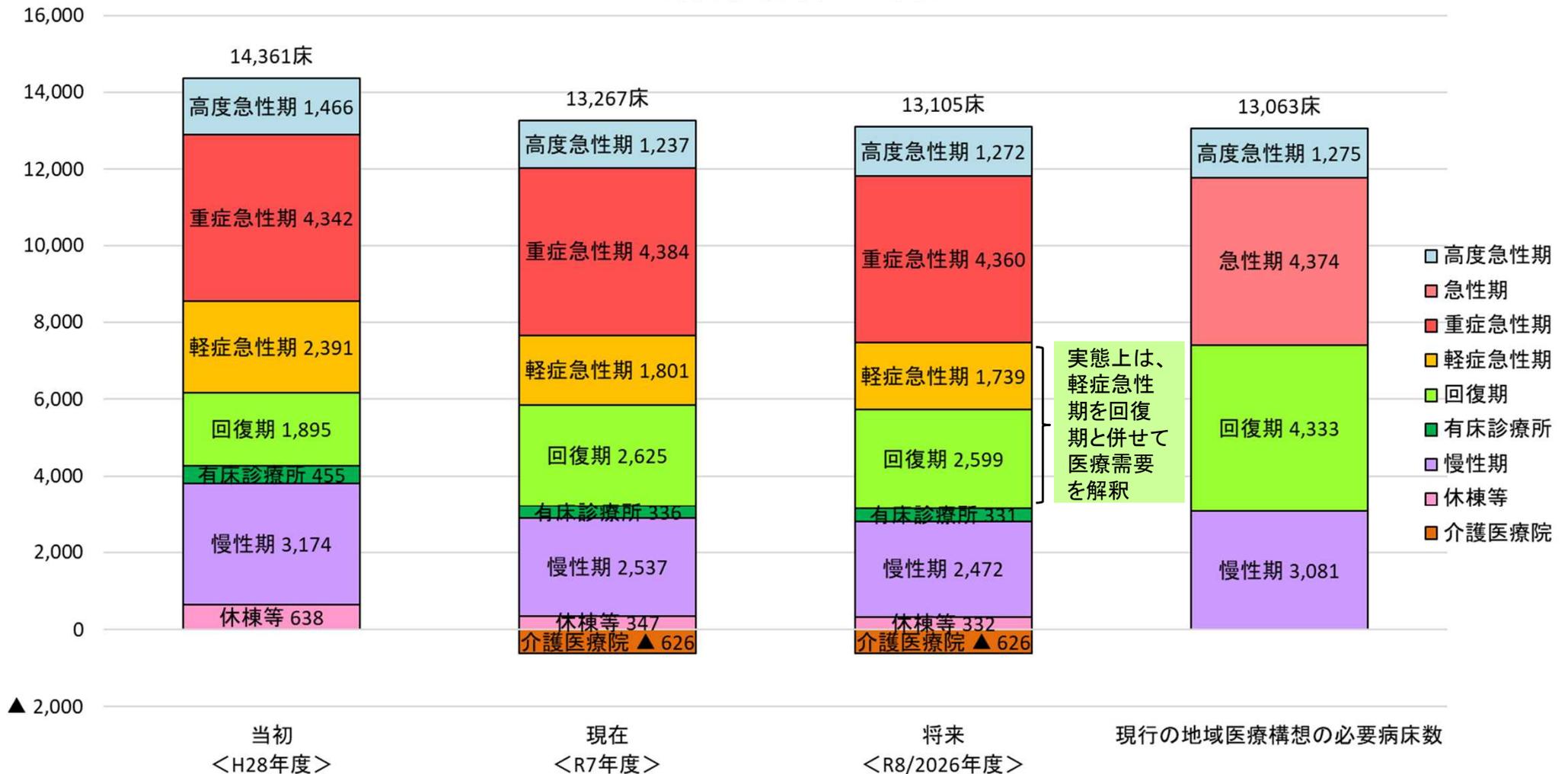
奈良県の医療提供体制の現状

①機能毎の病床数

機能毎の病床数(奈良県全域)

- 平成28年度に比べ、介護医療院への転換が進むなど、病床数は減少。
- 軽症急性期を回復期相当と解釈することで、「2025年の機能別の必要病床数」とほぼ一致する結果。

<奈良県全域>

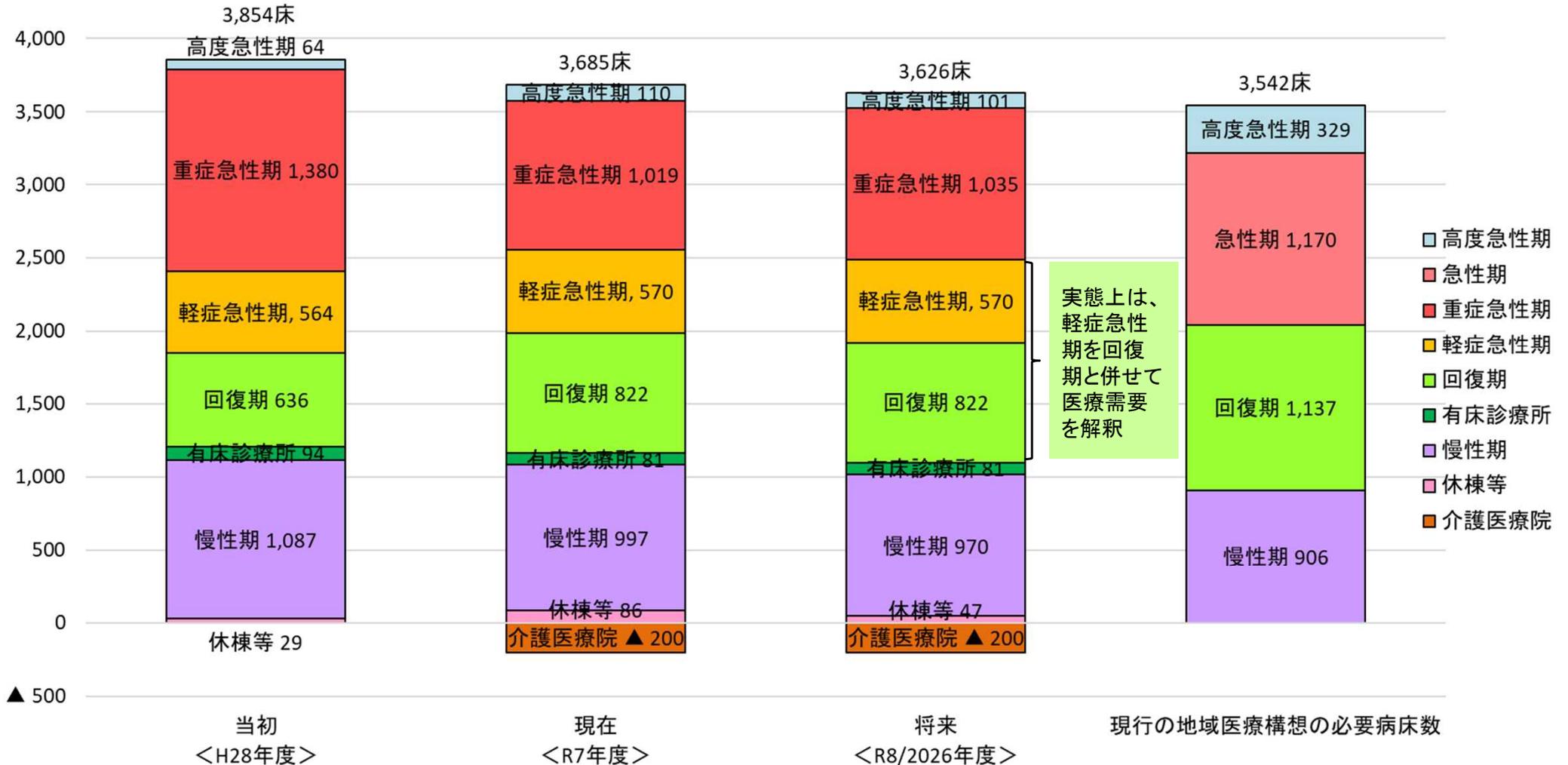


○令和7年度の各病院の「地域医療構想における具体的対応方針」の数値を集計 ○有床診療所の病床数は、R7年度の病床機能報告の速報数値 ○「当初<H28年度>」の病床数は病床機能報告をベースに、具体的対応方針等を踏まえ、実態に合わせて修正している ○医療法人社団 石州会病院は有床診療所へ転換のため、R7年度の病床機能報告の数値を使用

機能毎の病床数(奈良医療圏)

➤ 引き続き、「軽症急性期」「回復期」の報告を併せると、「回復期」の2025年の必要病床数と近い数字となっている。

<奈良医療圏>

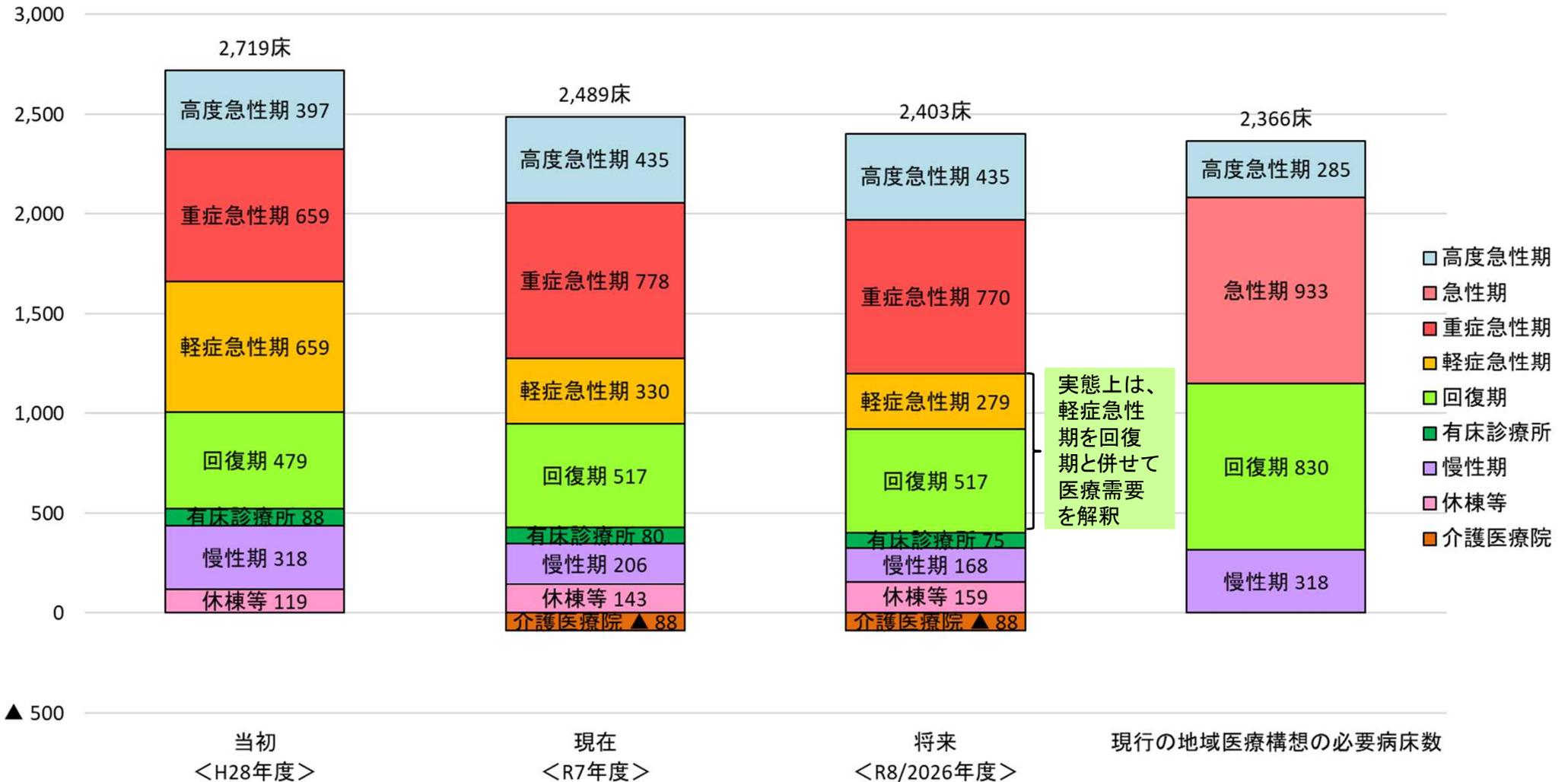


○令和7年度の各病院の「地域医療構想における具体的対応方針」の数値を集計 ○有床診療所の病床数は、R7年度の病床機能報告の速報数値 ○「当初<H28年度>」の病床数は病床機能報告をベースに、具体的対応方針等を踏まえ、実態に合わせて修正している ○医療法人社団 石州会病院は有床診療所へ転換のため、R7年度の病床機能報告の数値を使用

機能毎の病床数(東和医療圏)

➤ 引き続き、「軽症急性期」「回復期」の報告を併せると、「回復期」の2025年の必要病床数と近い数字となっている。

<東和医療圏>

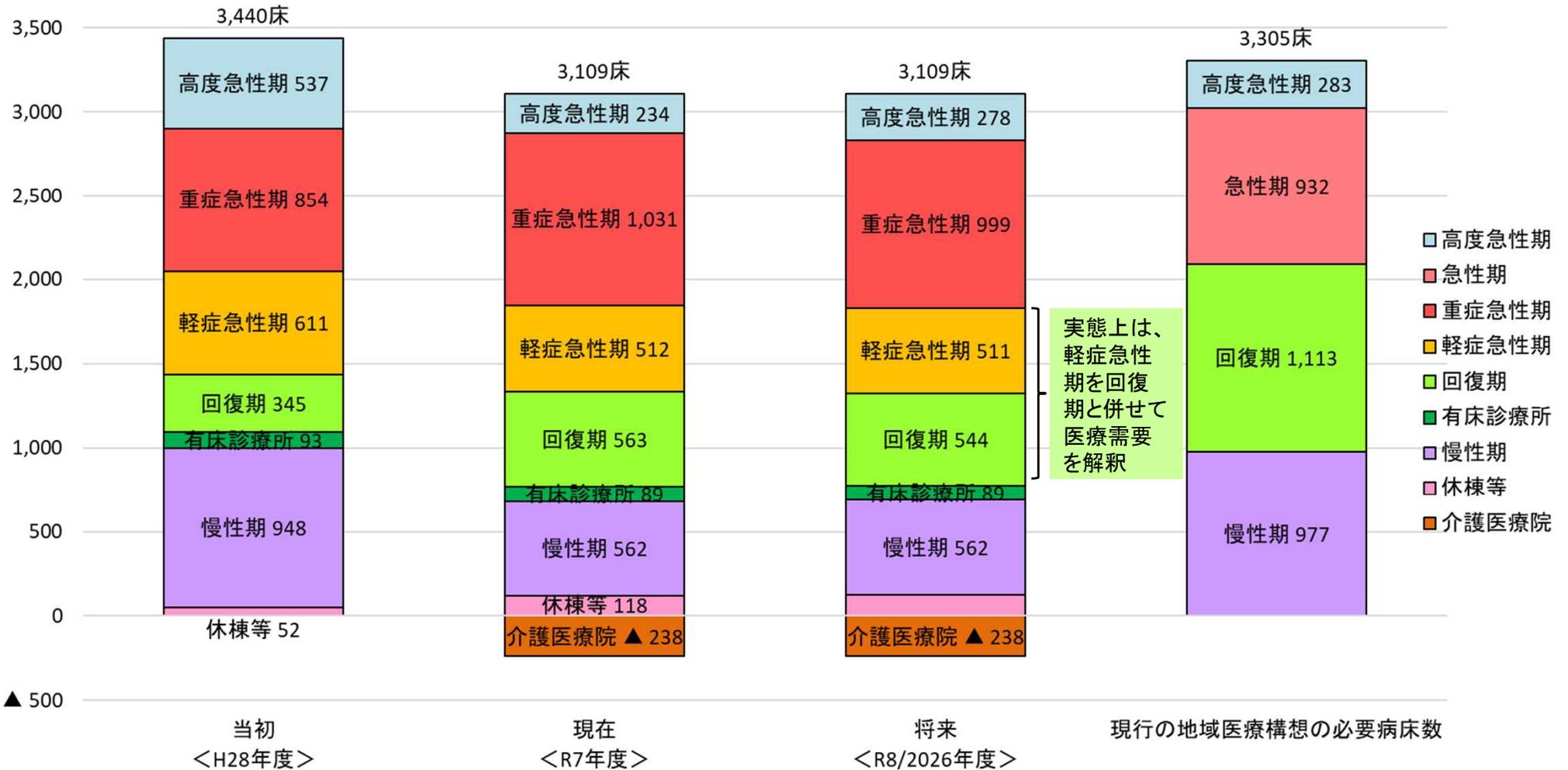


○令和7年度の各病院の「地域医療構想における具体的対応方針」の数値を集計 ○有床診療所の病床数は、R7年度の病床機能報告の速報数値 ○「当初<H28年度>」の病床数は病床機能報告をベースに、具体的対応方針等を踏まえ、実態に合わせて修正している

機能毎の病床数(西和医療圏)

➤ 2025年の必要病床数と比較すると、「軽症急性期・回復期・慢性期病症」がやや少なく、「重症急性期病床」がやや多い状態。

<西和医療圏>

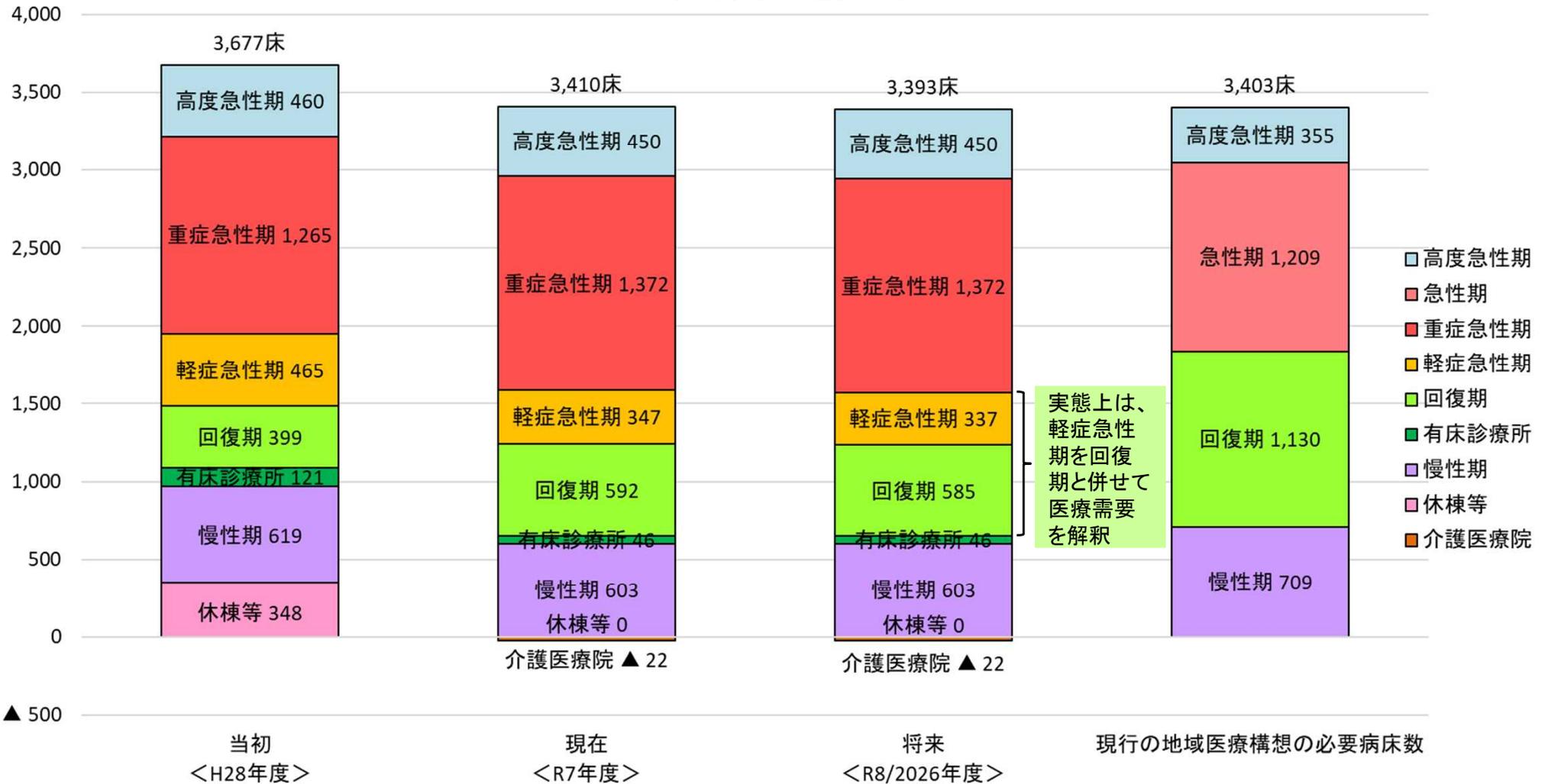


○令和7年度の各病院の「地域医療構想における具体的対応方針」の数値を集計 ○有床診療所の病床数は、R7年度の病床機能報告の速報数値 ○「当初<H28年度>」の病床数は病床機能報告をベースに、具体的対応方針等を踏まえ、実態に合わせて修正している

機能毎の病床数(中和医療圏)

➤ 「軽症急性期」「回復期」の報告を併せると、「回復期」の2025年の必要病床数と近づくが、やや少ない状態。

<中和医療圏>



○令和7年度の各病院の「地域医療構想における具体的対応方針」の数値を集計 ○有床診療所の病床数は、R7年度の病床機能報告の速報数値 ○「当初<H28年度>」の病床数は病床機能報告をベースに、具体的対応方針等を踏まえ、実態に合わせて修正している

機能毎の病床数(南和医療圏)

- 2025年の必要病床数と比較すると、「重症急性期・軽症急性期・回復期」が多い状態となっているが、必要病床数の推計データは南奈良総合医療センター開院前の患者流入を用いていることに留意する必要がある。

<南和医療圏>

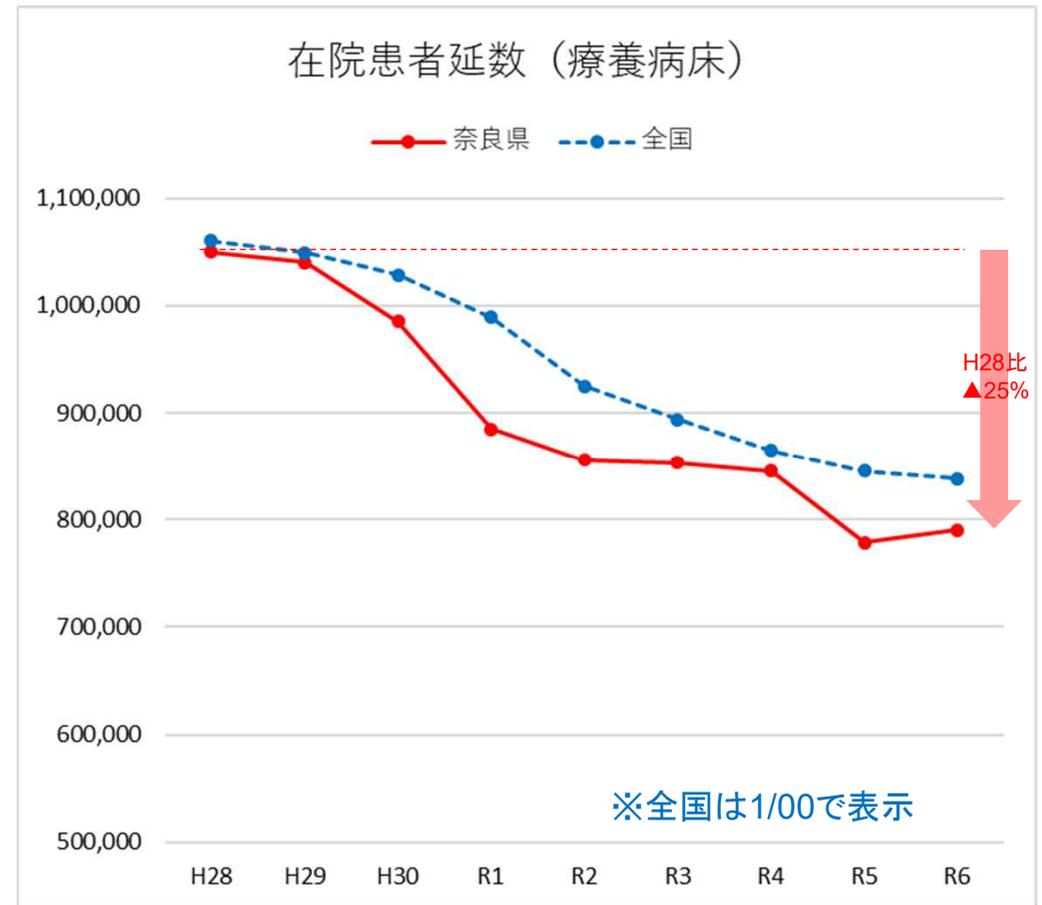
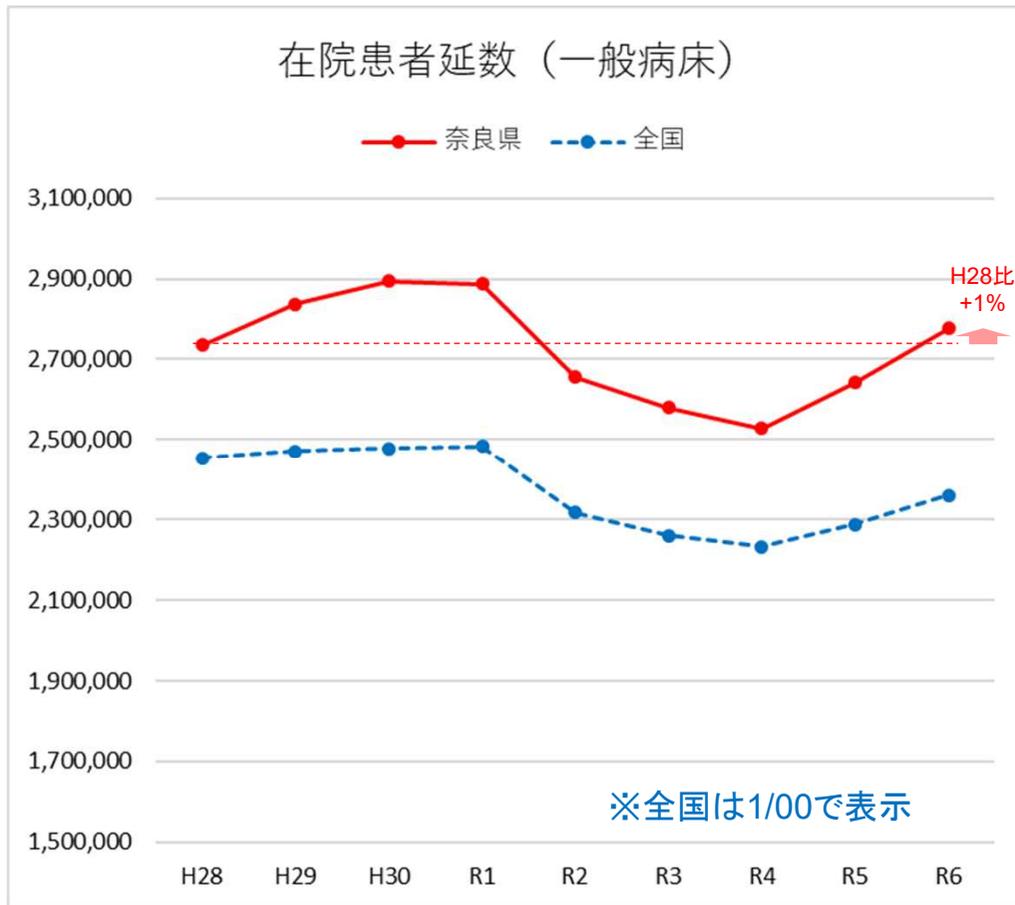


○令和7年度の各病院の「地域医療構想における具体的対応方針」の数値を集計 ○有床診療所の病床数は、R7年度の病床機能報告の速報数値 ○「当初<H28年度>」の病床数は病床機能報告をベースに、具体的対応方針等を踏まえ、実態に合わせて修正している

②入院医療需要について

①入院患者数の推移(H28～R6)

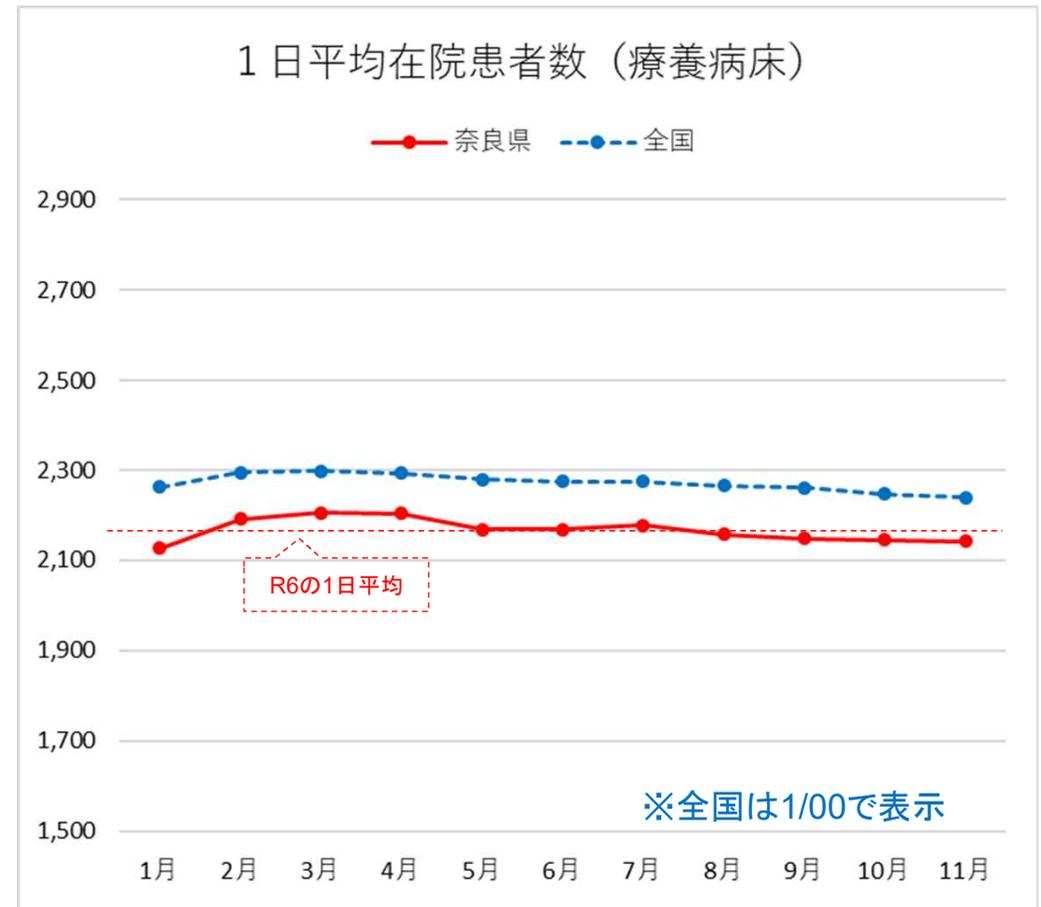
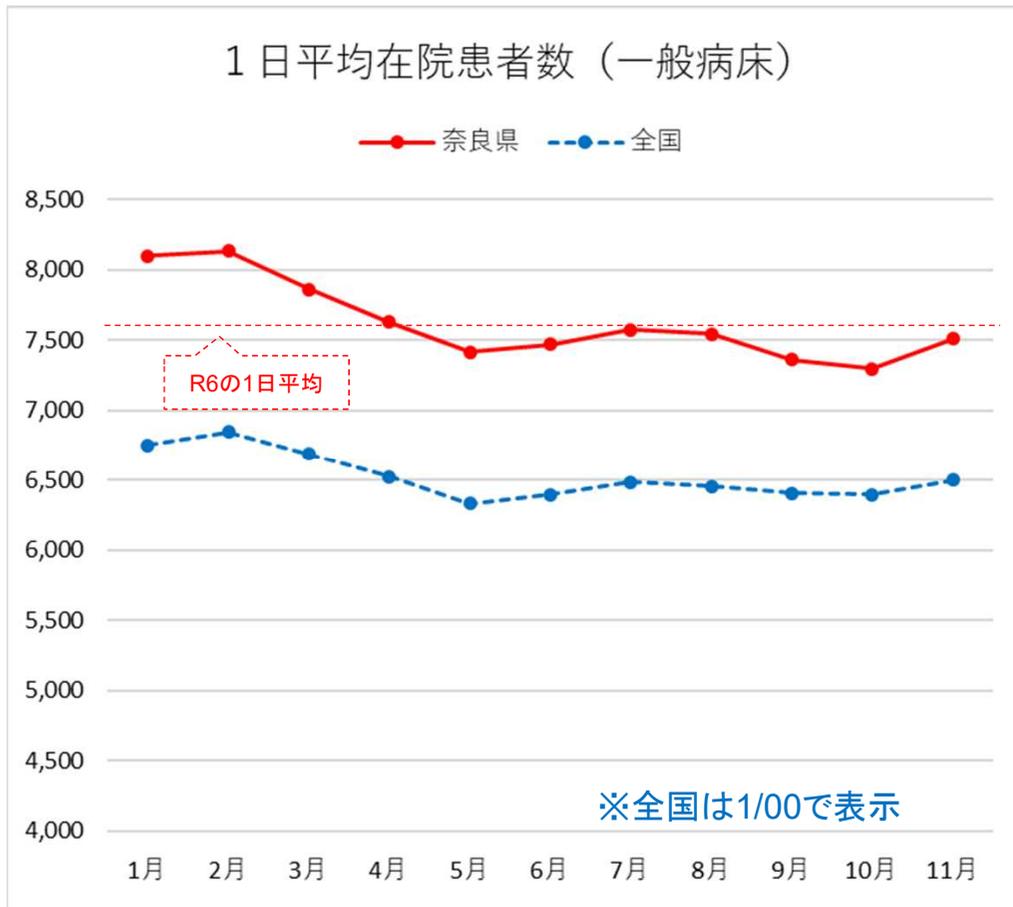
- 地域医療構想を策定したH28年と現在を比べると、病院の入院患者数は増えていない。
 - 一般病床：H28年とR6年はほぼ同値である。
 - 療養病床：H28からR6で25%減と、大きく減少した。



出典：病院報告（患者数は病院のみの集計）

①入院患者数の推移(R7月次)

➤ 直近の令和7年の月次データを見てみても、入院患者数は概ね横ばい(データは1日平均在院患者)

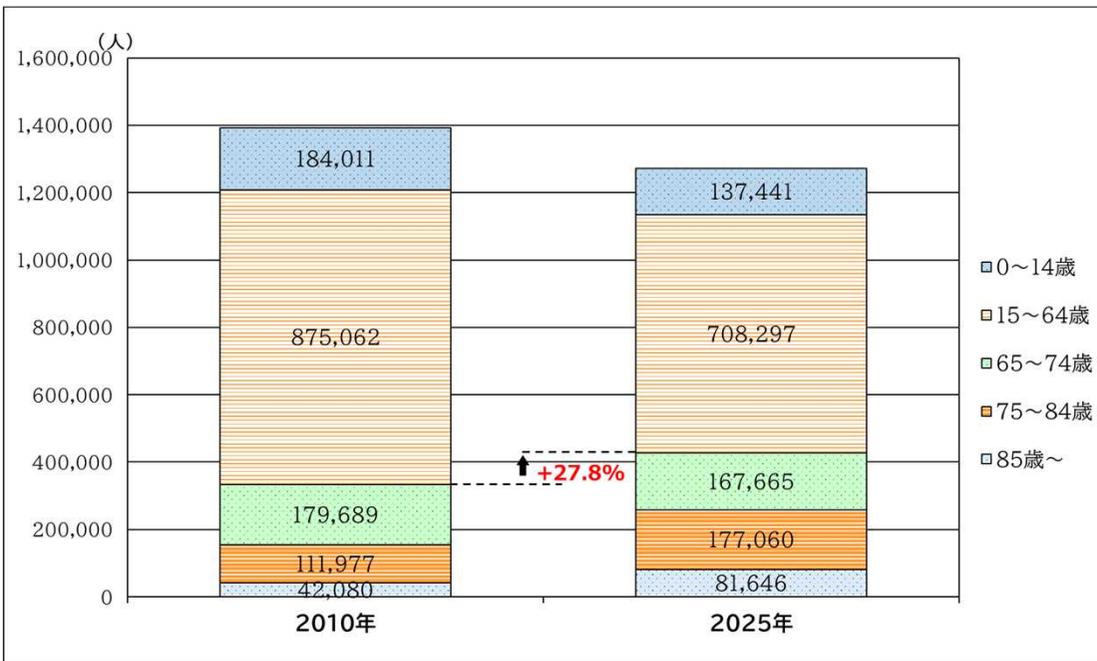


出典:病院報告(患者数は病院のみの集計)

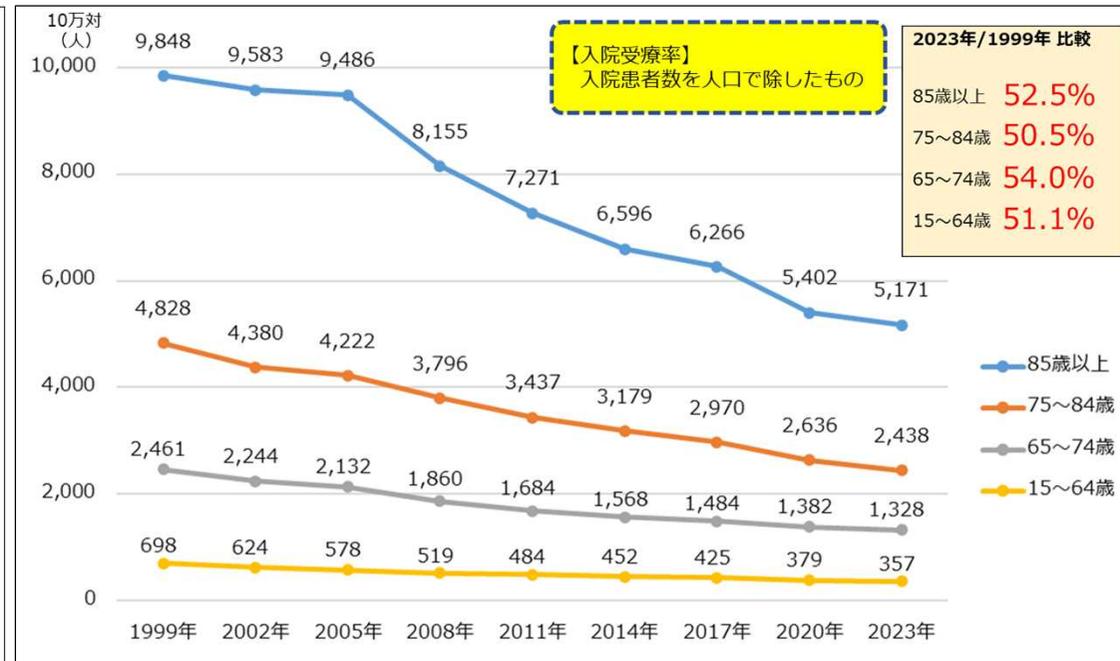
①入院患者が増えなかった要因

- 2025年を迎え、高齢者人口は大きく増加したものの、入院受療率の低下が続いているため、入院患者数は増加しなかったと考えられる。

奈良県の人口推移



入院受療率(10万対)の推移

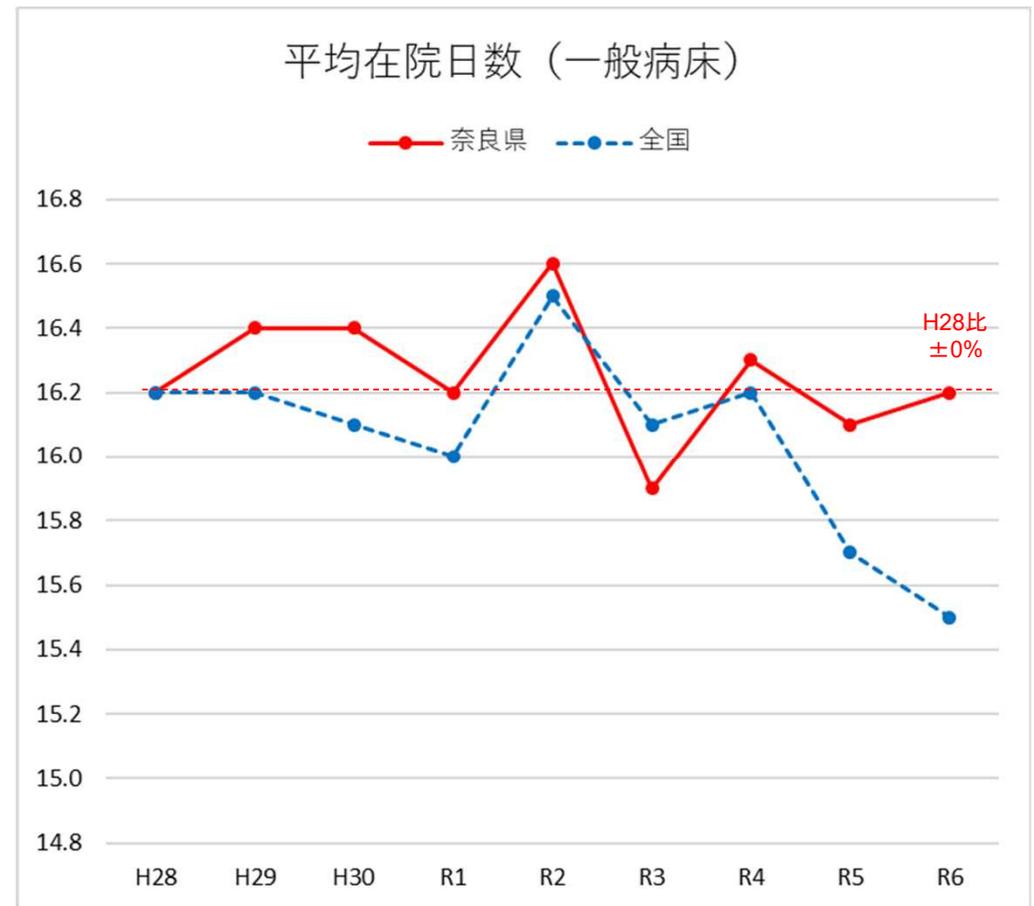
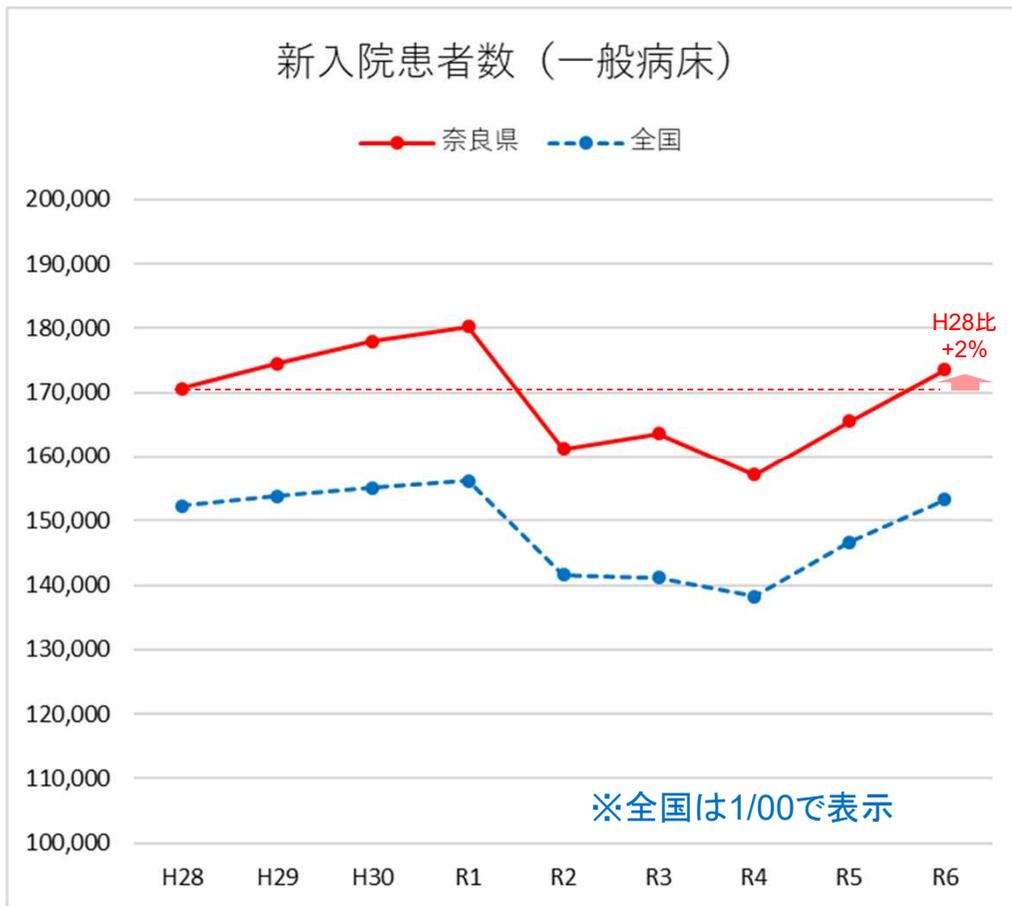


出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」、国勢調査平成22年国勢調査 人口等基本集計

出典: 厚生労働省患者調査(推計患者数の年次推移)を総務省人口推計(各年)で除したもの

②新規入院患者と平均在院日数の推移[一般病床]

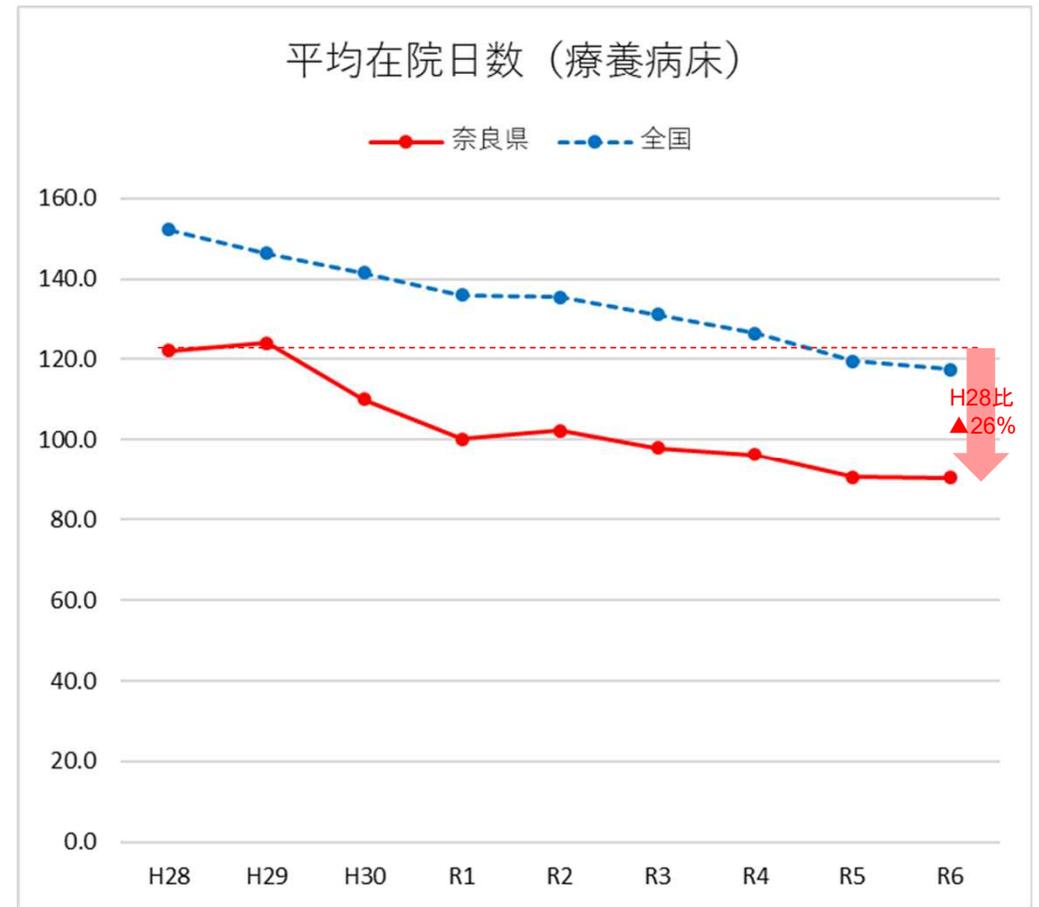
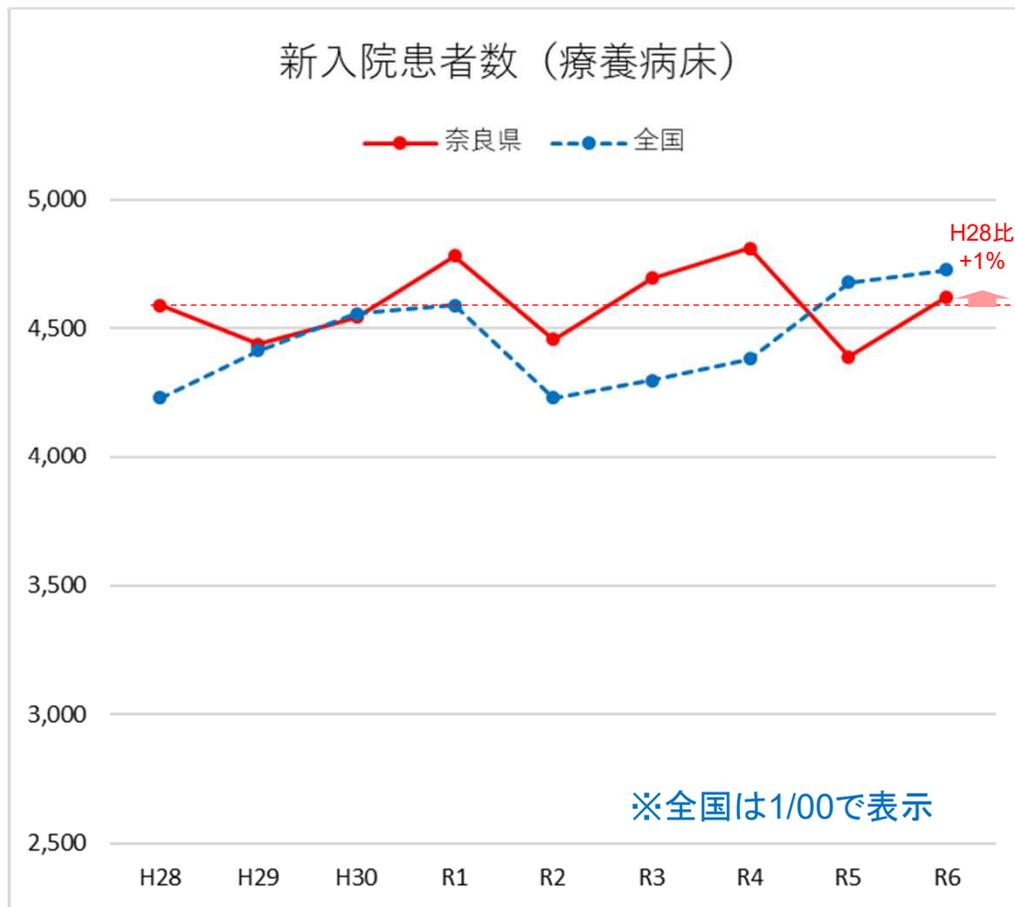
- 一般病床の入院患者数を、新規入院・平均在院日数に分解して見てみると、いずれもH28と同程度である。
 - 新規入院患者数:H28年と同水準(※高齢化の影響があるにも関わらず同水準に収まっていることに留意が必要)
 - 平均在院日数:横ばい(ただし全国は低下)



出典:病院報告(患者数は病院のみの集計)

②新規入院患者と平均在院日数の推移[療養病床]

- 療養病床の入院患者数を、新規入院・平均在院日数に分解して見てみると、在院日数短縮の影響が大きい
- 新規入院患者数:横ばい(※高齢化の影響があるにも関わらず同水準に収まっていることに留意が必要)
 - 平均在院日数:大幅に短縮



出典:病院報告(患者数は病院のみの集計)

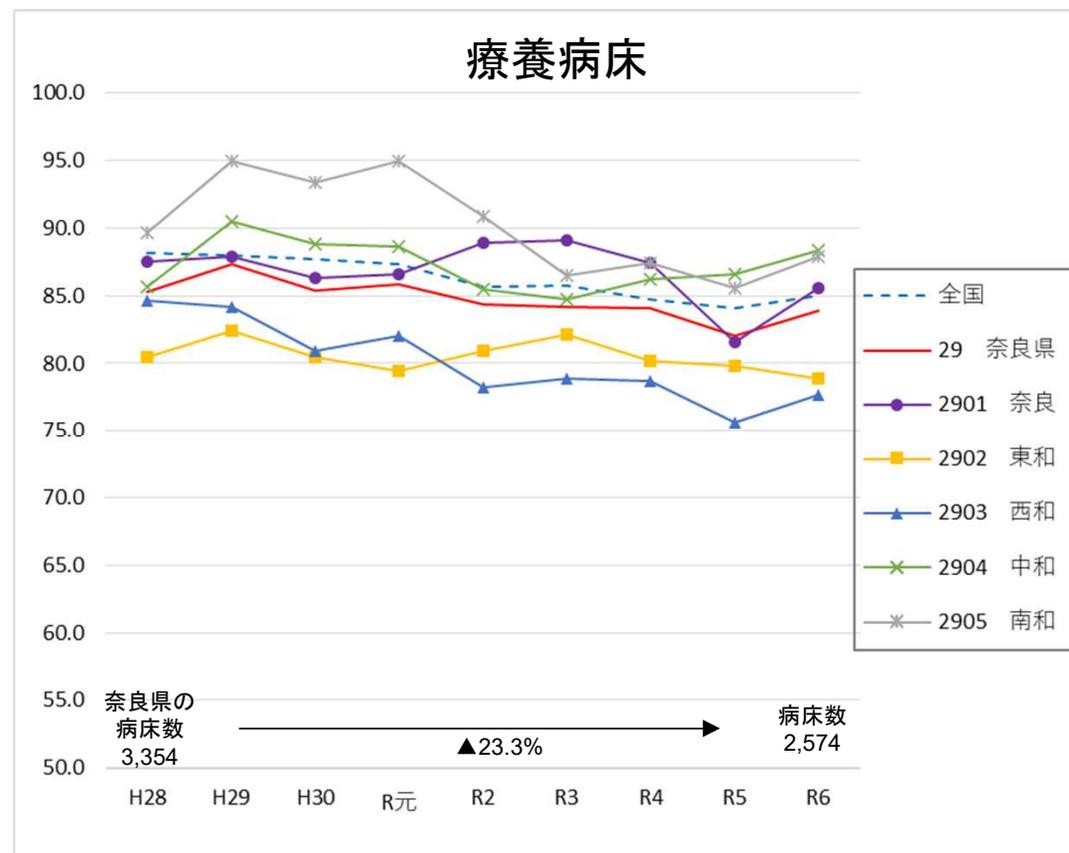
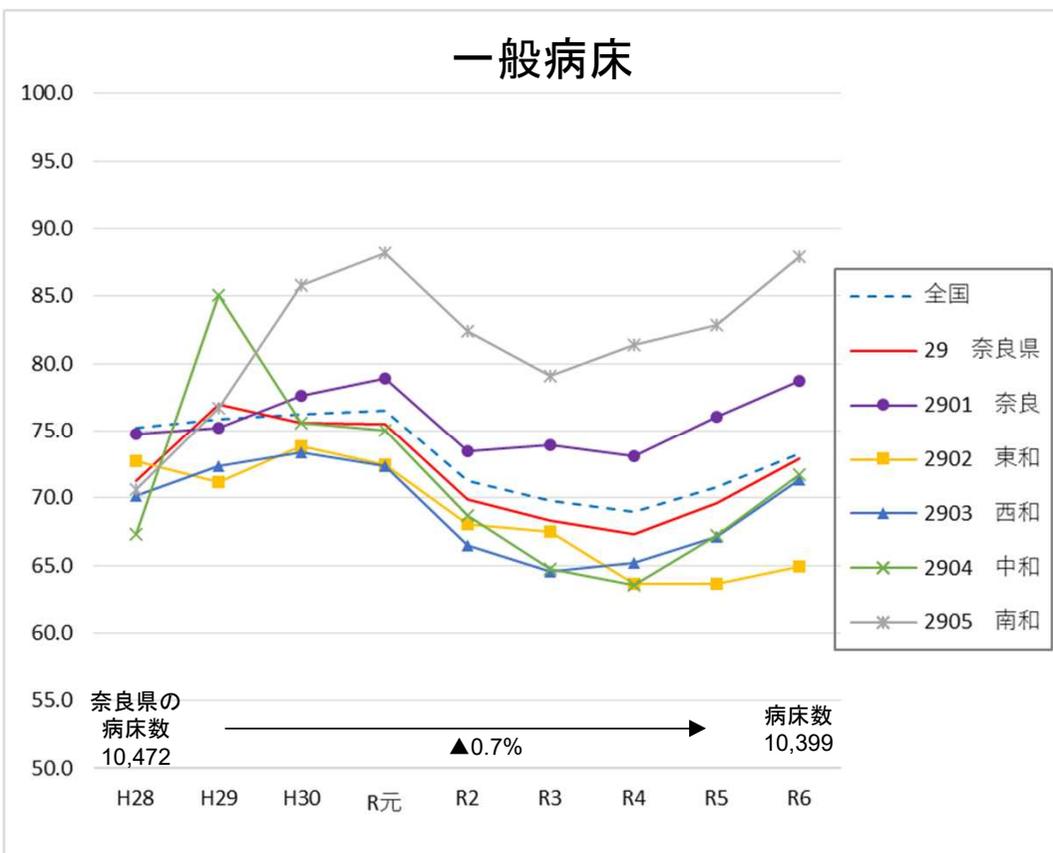
(参考) 病床利用率の現状 (H28～R6)

【一般病床】

- 令和6年度の奈良県の病床利用率は、コロナ前の令和元年度よりも2.6ポイント低い。(およそ270床に相当)
- 東和・西和・中和が県平均よりも低い。

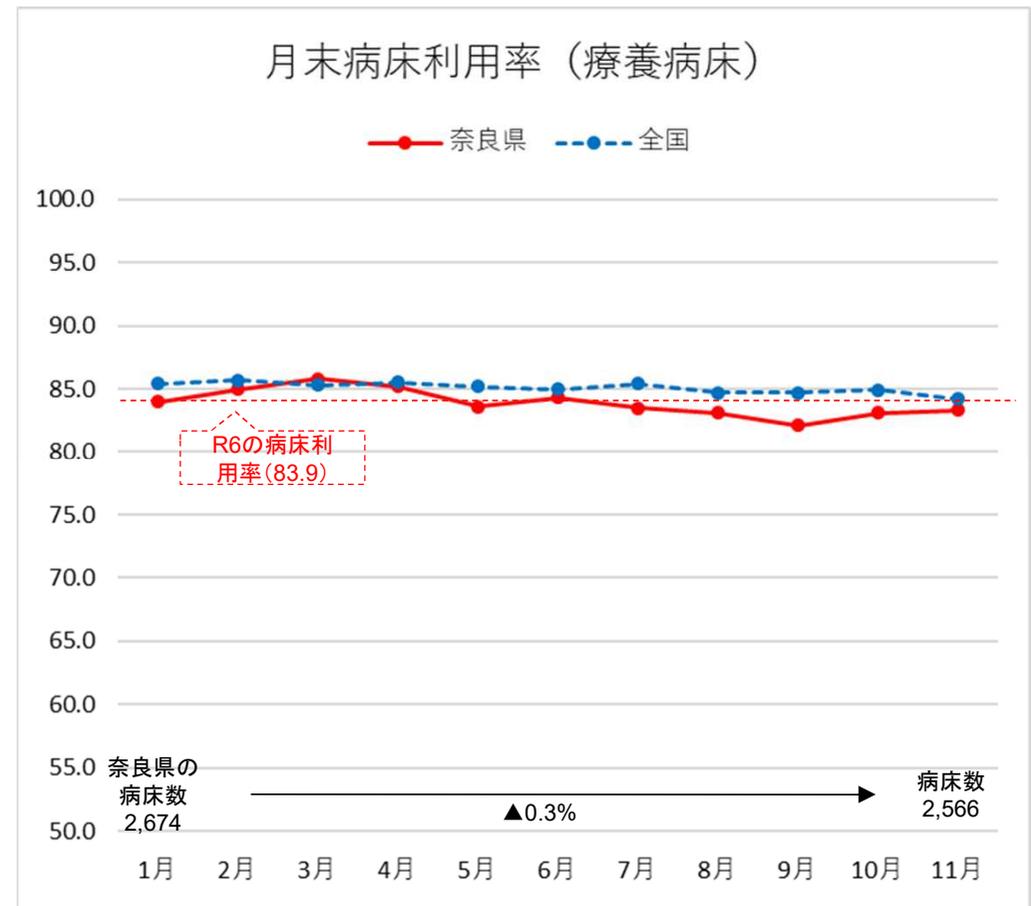
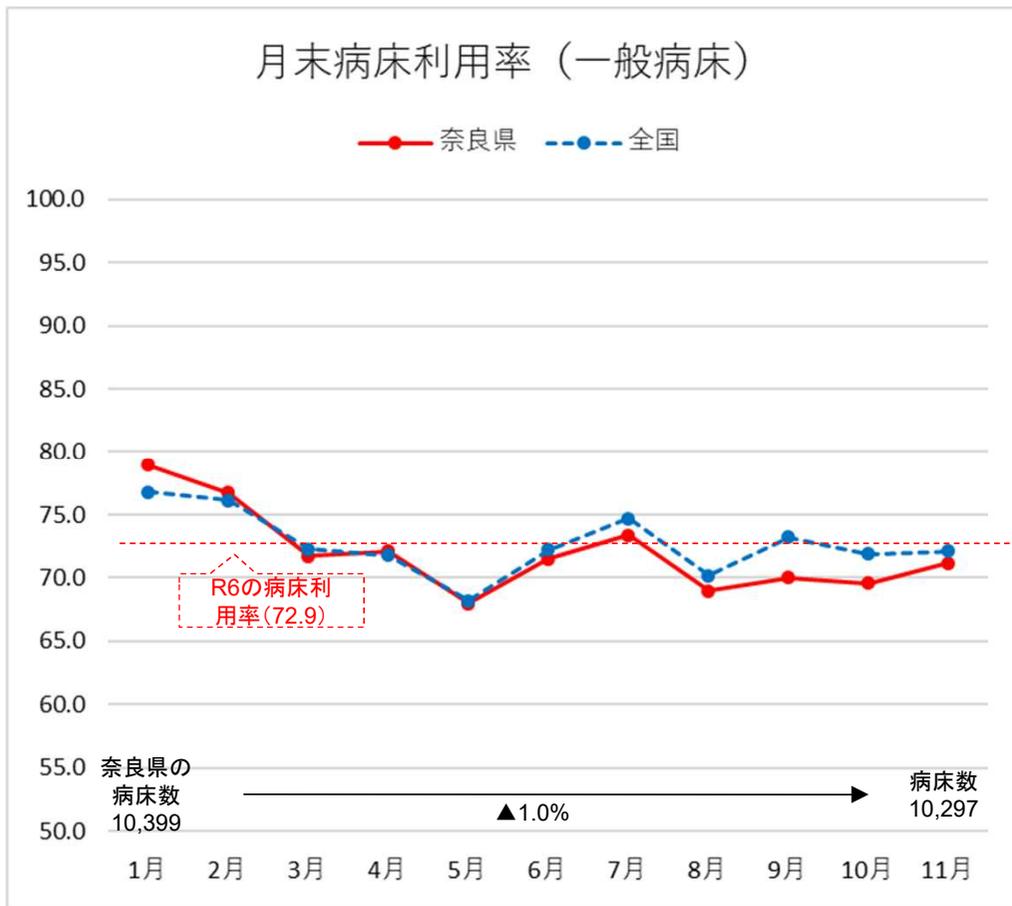
【療養病床】

- 令和6年度の奈良県の病床利用率は、コロナ前の令和元年度よりも2.0ポイント低い。(およそ50床に相当)
- 東和・西和が県平均よりも低い。



(参考) 病床利用率の現状 (R7月次)

➤ 令和7年の病床利用率を見ると、回復傾向は見られない。



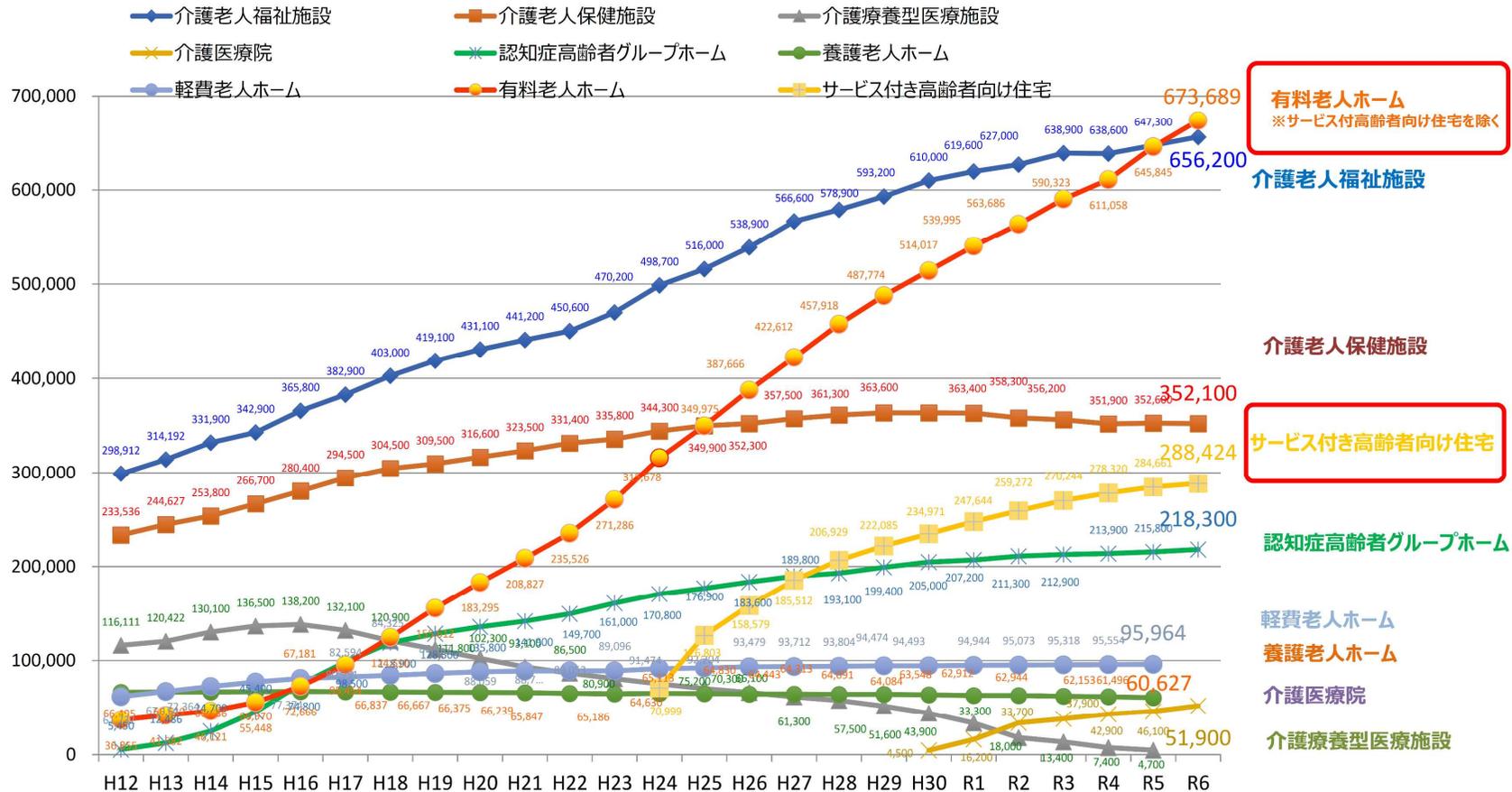
出典: 病院報告 (患者数は病院のみの集計)

③高年齢者向け施設・住まいの利用者数

➤ 有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅等が増加し、医療・介護ニーズの受け皿となっていると考えられる。

高齢者向け施設・住まいの利用者数

(単位：人・床)



※1：介護保険施設及び認知症高齢者グループホームは、「介護サービス施設・事業所調査（10/1時点）【H12・H13】」、「介護給付費等実態調査（10月審査分）【H14～H29】」及び「介護給付費等実態統計（10月審査分）【H30～】」による。
 ※2：介護老人福祉施設は、介護福祉施設サービスと地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護を合算したものの。
 ※3：認知症高齢者グループホームは、H12～H16は痴呆対応型共同生活介護、H17～は認知症対応型共同生活介護により表示。（短期利用を除く）
 ※4：養護老人ホーム・軽費老人ホームは、「社会福祉施設等調査（R2.10/1時点）」による。ただし、H21～H23は調査票の回収率から算出した推計値であり、H24～は基本票の数値。（利用者数ではなく定員数）
 ※5：有料老人ホームは、厚生労働省老健局の調査結果（利用者数ではなく定員数）による。サービス付き高齢者向け住宅を除く。
 ※6：サービス付き高齢者向け住宅は、「サービス付き高齢者向け住宅情報提供システム（R4.9/30時点）」による。（利用者数ではなく登録戸数）

④今後の入院患者推計について

- 入院受療率の低下が“これまでと同じように続く”と仮定して将来の入院患者を推計すると、今後の入院需要は減少していくこととなる。(下図「低減モデルシナリオ」)
- また、“受療率の低下は半分程度に収まる”と仮定した場合であっても、入院需要は既にピークアウトしているという結果となる。(下図「中位シナリオ」)

R7.11.21「地域医療構想実現に向けた医療機能再編等に係る研修会」資料より

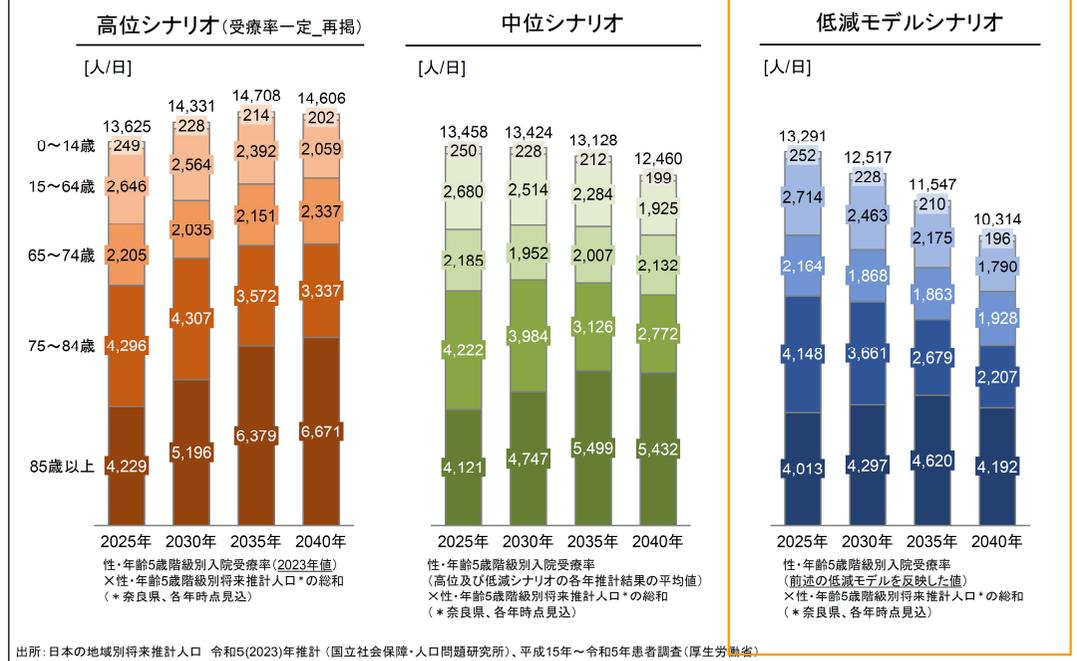
(再掲) 入院受療率(10万対)の推移



出典:厚生労働省患者調査(推計患者数の年次推移)を総務省人口推計(各年)で除したもの

奈良県全体の医療提供状況の現状と見通し
入院延患者数の将来推計(高位・中位・低減モデルシナリオ)

低減モデルシナリオ及び中位シナリオにおける入院延患者数は減少するが、2035年までは、いずれのシナリオも85歳以上が増加する。



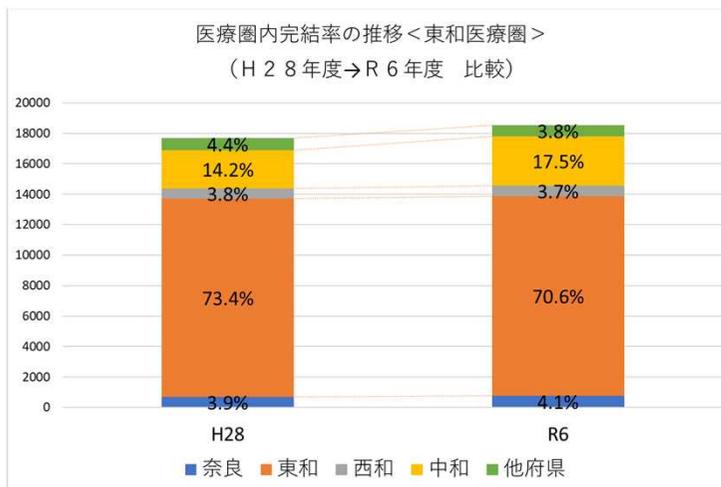
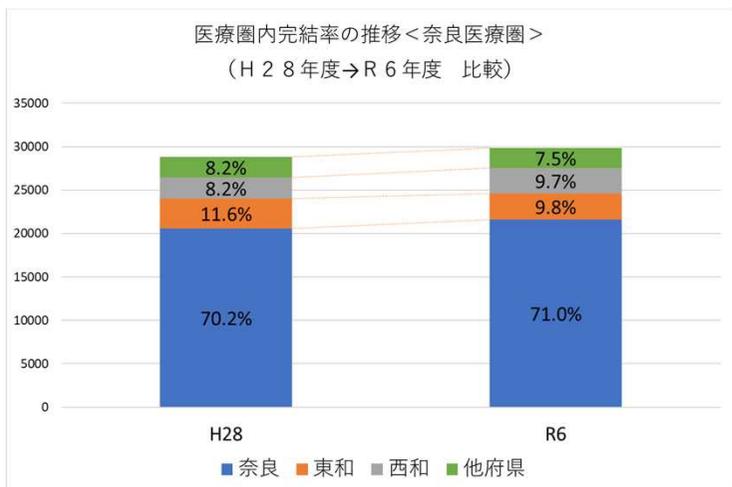
受療率の低下傾向が続けば...

- 将来推計人口は出生中位・死亡中位を使用
- 低減モデルシナリオの入院受療率の算定は以下のとおり
 - ・性・年齢5歳階級別入院受療率を平均在院日数と新規入院受療率(入院受療率/平均在院日数)に分解
 - ・それぞれ過去実績(2002年~2023年)との残渣二乗和が最小になるモデル関数をGRG非線形法で算出
 - ・ただし、2002年~2023年で平均在院日数や新規入院受療率が上昇傾向の性・年齢階級は2023年値のままと仮定。

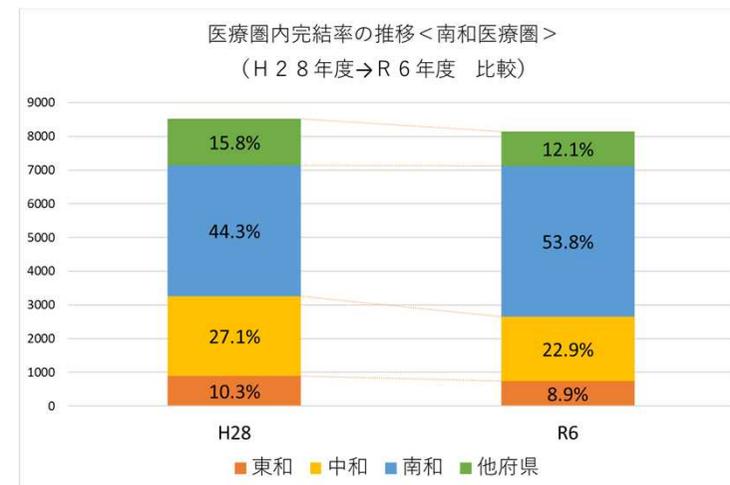
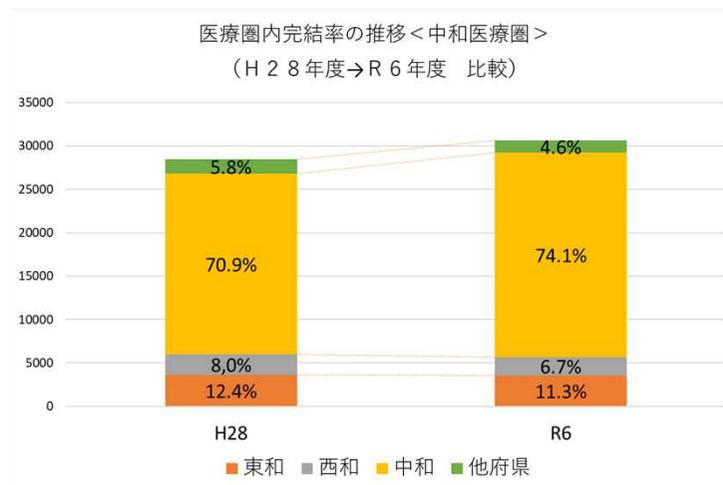
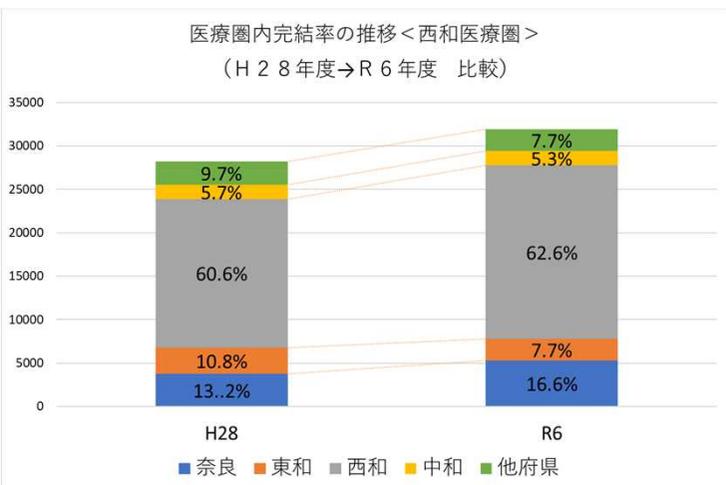
③医療圏内での完結率について

医療圏別完結率の推移(H28年度→R6年度 比較)

- 東和医療圏を除き、入院の医療圏内完結率は上昇している
- 全医療圏で他府県への流出は減少している



(※)
 ・精神病棟への入院は除く
 ・割合が3%未満の医療圏の標記は省略



出典: 奈良県市町村国保と後期高齢者医療制度の被保険者データ(平成28年4月～平成29年3月及び令和6年4月～令和7年3月診療分データ)より